

少年兵として特殊部隊へ

市内在住 匿名 九四歳

昭和19年8月に徴兵検査を受け、12月に出征しました。本来3カ月行いう歩兵教育を15日に短縮され、千葉、埼玉、東京、神奈川、山梨から300人、舞鶴港から船に乗って、朝鮮の釜山へ渡りました。釜山から南京まで1週間かけ、貨物列車で移動し、その後、衛生兵の訓練を受けました。訓練中は整頓が悪いと2列に並ばされ、対向ビンタのたたき合いをさせられるなど体罰があり、つらいものでした。

私は細菌（コレラ菌、ペスト菌、風土病、伝染病など）を培養する特殊部隊に入りました。恐ろしいことにコレラ菌を培養して、揚子江の上流から流すといった実験をしたことがありました。この時、自分たちの食べる野菜はかなり遠くから取り寄せたはずなのに、コレラ菌が付着していて、1週間ほどまともな飯をとることができませんでした。

私が部隊に入った頃は、物資不足で大した武器もなく、すでに上層部では敗戦が言われていたようです。昭和20年7月からは施設を爆破するなど証拠隠滅作業が行われていま

した。終戦になっても、私たちは伝染病の研究ということで、約1カ月ほど帰国を延ばされ、証拠隠滅作業をさせられました。研究材料として捕らわれていたシナ人、満州（朝鮮）人、ロシア人の19人には青酸カリを静脈に注射し、亡き者になりました。注射をするのは医師でしたが、断末魔の人間の力はすごいもので、暴れて、手足を縛り付けていた台ごと持ち上がろうとするので、私たち少年兵の何人もが上に載って押さえつけました。あまりに大変だということで、心臓に直接注射をすると、すぐに静かになり亡くなりました。

私たち少年兵には、この亡くなった者たちを窯で灰になるまで焼くという任務もありました。1日に2人焼くのが限界で、これが一番つらく大変な任務でした。腐食した人間の臭いは本当にひどく、何日も飯が食べられなくなりました。

これまでの研究で亡くなり埋められていた者を掘り起こし、灰になるまで焼くということも証拠隠滅のためにしました。10メートル四方の中に30人ずつ、5か所に合計150人が埋められていました。掘り起こした骨をすべて並べさせ、医師が確認して、あるべき骨が足りない場合にはもう一度探

せと言われることもありました。結局、期限に作業が間に合
わず、分からないように粉々にして、揚子江に流しました。

ようやく帰国となりますが、南京から上海に行く鉄道は、
毛沢東の部下に破壊されたので、上海までは船で下りました。
上海から日本の船はなく、アメリカのエバー船で、神奈川の
浦賀まで行きました。着いても伝染病の検査ということで、
船から1週間降ろしてもらえず、船から降ろしてもらえたと
思ったら1週間、山の中に連れて行かれ、隔離されました。

家に帰ってからも、部隊でのことを口外することは許され
ませんでした。本当のところ、どこまで話して良いのか今も
わかりません。当時の写真も何もかも没収されたので、誰が
いたかもよくわかりませんが、帰国して30年後に戦友会と
いうものができました。年に1度集まりがありました。当
時の話をするにはほとんどありませんでした。唯一、帰国
の船には皆が乗ったはずなのに「○○は見たか?」「見なか
ったな」と降りてこない者がいた話はよくしました。証拠隠
滅のために殺されたのでしょうか、絶望感から自殺したので
しょうか。